

2022年度 個人研究実績・成果報告書

2023年 3月 28日

所属	人間社会学部	職名	准教授	氏名	小口広太
研究課題	神奈川県における都市農業の現状と課題：横浜市と川崎市を事例として				
研究キーワード	都市農業、まちづくり、地産地消、市民参加	当年度計画に対する達成度	2.順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が達成できた		
関連するSDGs項目	3. すべての人に健康と福祉を	11. 住み続けられるまちづくりを	15. 陸の豊かさを守ろう	17. パートナリーシップで目標を達成しよう	

1. 研究成果の概要

本研究では、神奈川県における都市農業の展開を取り上げる。これまでは、都市農業の先進地である東京都の事例が多く取り上げられている。一方で、東京都と同じく都市部を多く抱える神奈川県や千葉県などの都市農業の実態については、研究の蓄積が少ない。先行研究の成果を踏まえた上で、横浜市、川崎市を事例として取り上げ、その現状と特徴を明らかにする。

2. 著書・論文・学会発表等（査読の有無及び海外研究機関等の研究者との国際共著論文がある場合は必ず記載）

【著書・論文（査読なし）】

後藤光蔵・北沢俊春・田中誠（2022）『都市農業の変化と援農ボランティアの役割：支え手から担い手へ』筑波書房（「援農ボランティア研究と本書の位置づけ」 pp.17-25、「自治体主導による援農ボランティア制度の展開」 pp.36-53、「援農ボランティア制度のマネジメント論」 pp.102-117、「ポストコロナ社会における都市農業の役割と援農ボランティア」 pp.157-170）

【学会発表等】

東京都農業会議・アグリタウン研究会 2022年度第2回研究会「都市で育つ耕す市民：市民参加から多様な協働へ」（2022年11月）

3. 主な経費

調査研究の取りまとめを行うため、関連書籍や雑誌、文具の購入などに使用した。

4. その他の特筆すべき事項（表彰、研究資金の受入状況等）

- 令和4年度農林水産省有機農産物安定供給体制構築事業に係る事業検討委員（任期：2022年6月1日～2023年3月31日）
- 千葉県農林公共事業評価審議会委員（任期：2022年2月2日～2025年2月1日）

（本文は2ページ以内にまとめること）